



マケタマルカ



私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

「最先端」と「最適化」の選択



このお正月休みにデニーズで食事をしました。ほとんどのテーブルで店員が呼びとめられ、年配客がメニューを見ながら声で注文を伝え、タブレット端末の操作を店員にやらせていました。ファミレスの勝ち組「サイゼリヤ」が注文用紙に客にペン記入させるオーダー方法との圧倒的な差を目の当たりにしました。両社の注文ツールの選択の違いは「最先端」と「最適化」のどちらを選択したかの違いのように思えたのです。

世の中で新商品と騒がれるモノが必ずしも技術的に優れたものや使いやすいものとは限りません。私にそれを決定的に印象づけてくれたのがすでに忘れ去られた存在になりつつあるAIスピーカーでした。

AIスピーカーを起動させるのにどうして声を発しないといけないのか？声を発することが最も楽で、簡単なのか、それはわかりません。手が届くのにスイッチを押さず、機械と無機質な会話をしなければならない自分に抵抗を感じる人は多いと思います。

もし、オフィスでパソコンに向かう社員がキーボードを叩くことなく、入力したい内容を声に出してしゃべりはじめたら、そんなオフィスで生産性が向上するとは思えません。

事務ワークでペーパーレスが叫ばれコピー用紙が無くなるか？といえばそんなことはあり得ません。「あの書類を確認したい」となれば、パソコンを立ち上げフォルダにたどり着くまでカチカチとマウスを動かすより紙で保管するほうが手取り早いケースはいくらでもあります。

もし、100年前にパソコンが存在していて、デジタル記憶媒体の後に「紙」が登場していたらどうなったでしょう？きっと「こんな便利な情報の記憶・保存媒体があるのか」とデジタルデータレスの動きになっていたらう、なんて考えてしまうのです。



新年あけましておめでとうございます。本年も弊社採用担当と「マケタマルカ」をよろしくお願ひ申し上げます。ひとりでも多くの若い力を大切に育て上げたい。会社を通して新入社員の人間形成の役に立ちたいと存じます。ぜひとも、大切な生徒様の進路先に当社を加えてください。本年も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

松本 隆一郎